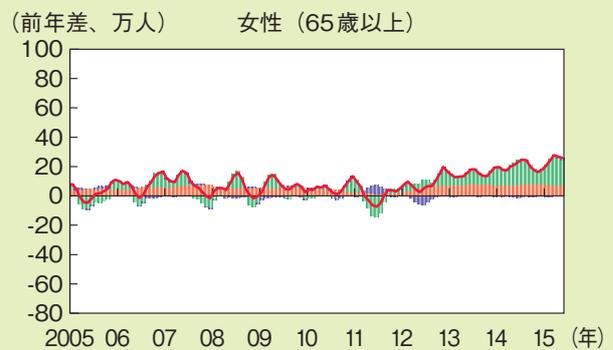
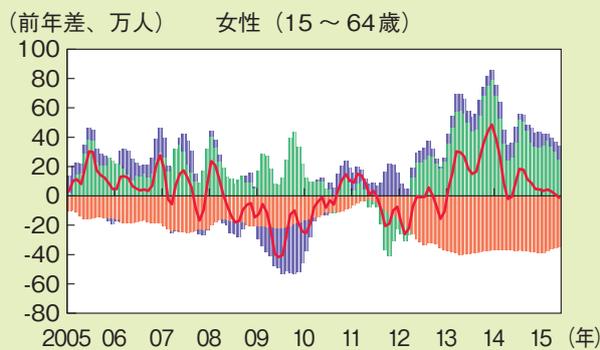
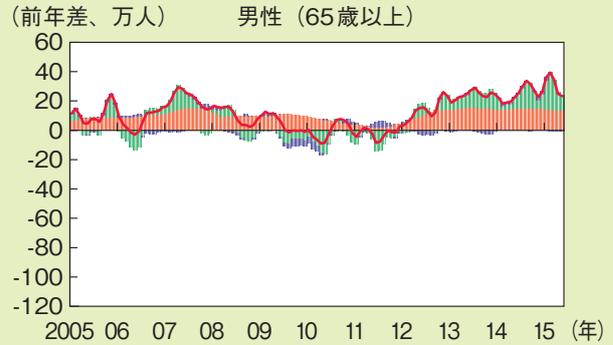
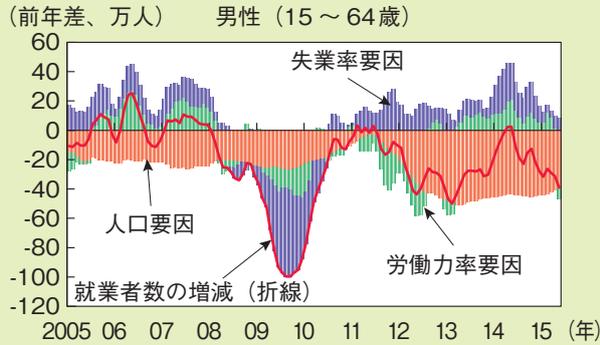


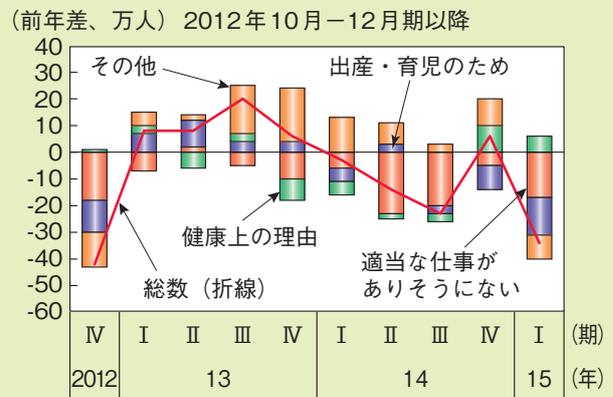
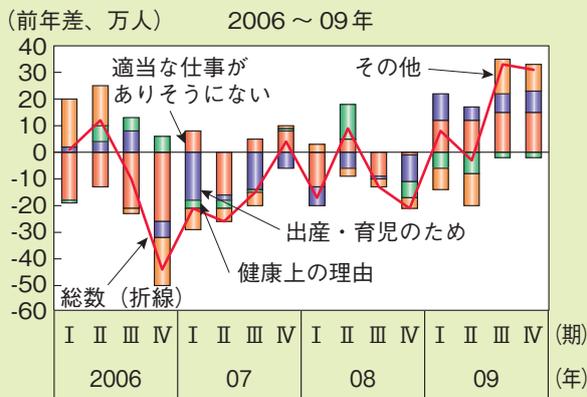
第1-2-2図 労働供給の動向

供給面では女性や高齢者で労働参加が増加

(1) 男性・女性別就業者数の増減要因



(2) 非求職者の非求職理由



(備考) 1. 総務省「労働力調査」により作成。

$$2. \Delta E = \underbrace{\Delta P \times \left(\frac{L_{t-1}}{P_{t-1}}\right) \times \left(1 - \frac{U_{t-1}}{L_{t-1}}\right)}_{\text{人口要因}} + \underbrace{P_t \times \Delta \left(\frac{L}{P}\right) \times \left(1 - \frac{U_{t-1}}{L_{t-1}}\right)}_{\text{労働力率要因}} + \underbrace{P_t \times \frac{L_t}{P_t} \times \left(-\Delta \frac{U}{L}\right)}_{\text{失業率要因}}$$

E : 就業者数、 P : 人口、 L : 労働力人口、 U : 失業者数 ただし、 $\Delta L = L_t - L_{t-1}$
後方3か月移動平均。

- (2) における2012年10～12月期までの「出産・育児」のためは、「家事・育児のため仕事が続けられそうにない」としている。
- (2) における「その他」は、総数から適当な仕事がありそうにない、健康上の理由、出産・育児のためを除いた残差をとっている。